

# Computer Report

Vol.51 No.11 11月号 (通巻686号)

## はじめの言葉

■3.11 災害で、東北地方に散在していた各種の部品生産拠点の重要性が再認識されたのは、つい先頃のことである。「やはり、日本国内の製造工場は大切なんだ」と思われた矢先の超円高状況である。これを受け、輸出型製造業者はさらに日本国内の立地を、さらに見離す姿勢を示しながら、日本政府、日銀の金融政策に圧力をかけている。と思いきや、飛び込んできたのがタイにおける洪水騒動である。

■タイに存在する多くの日本企業の生産工場が浸水し、操業停止の事態に追い込まれている。機械部品などの製造業だけでなく、食品加工会社に至るまで、ほとんどありとあらゆる産業の重要な生産拠点がタイに集中していることを、この洪水事件は改めて再認識させた。日本と縁の深い国だというのはほとんどの日本人が知っているところだが、改めてそれを痛感させられた。日本の一地域の比ではない規模だということも改めて驚く。

■しかも、看過できないと思えたのは、閉鎖されたタイの工場での生産活動を維持するためタイ人の技術者を日本工場に一時移管すると某社が発表したことである。当該タイ人技術者のスキルの高さを評価するにやぶさかではないが、そこまで「もの作り日本」の技術者レベルに異変が起きる事態になっているらしい。生産拠点のオフショア化の影で確実に進行している相対的な日本人技術者レベルの低下だと言えるかもしれない。

■インドシナ半島の南方に位置するタイは、チャオプラヤ川によってもたらされる豊かな水資源のもとに稲作で古くから栄えた国として知られる。今回の洪水も、もとはと言えば1キロメートルを下っても1センチメートルしか落差がないという、ゆったりとした川の流れが原因とされるが、これが田園地帯だとしたら、稲作には最適、もってこいの地形である。自然の恵みを余すことなく享受できる地形である。

■山岳地域の森林伐採が元凶であるという説も流れているが、穿った見方をすると、日本などからの企業進出を受入れるために、かつての豊かな田園を埋め立て、アスファルトで固めて様々な工場を建ててきたことで、水はけの酷く悪い（良過ぎる？）環境を作り出してしまい、それが今度の大規模な洪水騒ぎのもととなっているかもしれない。水は低い所へと流れるように、タイ国が自然と引き換えに得たものの一つだと言えよう。

■一方、我が国日本も円高差益を貪る代償として、これまでの日本企業が培い、日本人が維持してきた多くの有形無形の技術資産が、オフショア諸国に着実に流れ去っていく様を見せつけられている。円高は日本産業にとって諸悪の根源のような経済現象だとするマスコミ論調が多い。しかし現実的には、企業の海外拠点への依存、オフショア化の実現という、本質的には円高差益の貪りを象徴する社会現象をもたらす根拠となっている。

■「余人をもって代え難し」という人間／人材になることを夢見た日本人は多かった。今も多いと信じたい。しかし、情報処理産業界にも見られるように、過度な海外依存、オフショア化は「余人をもって代え易し」状況を創り出している。つまりは、働かない日本人排出のメカニズムとなっているようだ。ゆるやかな洪水のように、その波は着実に日本企業全体、日本全体に流れ込んできているように案じられる。（藤見）